

## 私の身辺整理

野口幹夫

思えばたくさんの身近な人たちを見送ったものだ。父母、義父母、姉妹。義弟。振り返ってみれば、皆さっぱりした天国行きで、後始末に困らされたことは一度もなかった。我々夫婦もそれに見習おうと、10年前から身辺整理を始めた。その手始めは、その基本方針をはっきり定めようと夫婦の共同遺言を書くことからだった。延命措置はしないことや簡素な葬儀、資産の整理などをしたためた。以来毎年書き替えている。

自分が折に触れ書いたものは、デジタル化して8冊の湘南記としてまとめて製本してかつ内容はPCに収容してしまった。

アルバムは約100冊あった。自分たち子供時代のアルバムからはじまり、結婚後の子供たちの成長、孫たちの記録、など棚一杯分あった。専用のスキャナーを買って全冊をデジタル化して、一本のUSBメモリーに入れ、子供たちに渡し、原本は始末した。固有のものはこれで始末した。ささやかなデジタルトランフォーメーションDXの威力であった。

あとは身の回りの整理が残っている。築後40年の我が家は、かつては最大6名が一緒に生活した。それなりの広さを持っている。それが今二人になった。基本的に広すぎる。しかし惰性で全部をそれなりに便利に使っている。これでは身辺整理に着手することができない。整理のためには引っ越しでも始めないと動かない。そこで二人で過不足なく住めて、終の棲家にふさわしい居住空間を探そうと考えた。勘定すればこれは生涯6度目の転宅になる。そこで第6次転居作戦

と懐けて、候補地を探し始めた。最近では便利な高齢者用の住宅はどんどん増えている。まわりにも沢山あった。近くの10件の高齢者住宅を実地に訪ねてみた。どれもよくできていて、迎えて説明



してくれる職員の方も例外なく親切だ。それぞれ一長一短あるが、これなら入ってもよさそうと思うころもあった。

しかし転居後に我が家を引き取ってくれるはずの、子どもたちに相談すると、まだ早すぎると忠告された。それで目下第6次転居作戦は無期限の延期になった。

身辺整理もこれ以上進めなくてもしばらくはよくなった。実際に転居に直面しないと、身辺整理は進まないものだ。がらくたに囲まれて生活するのも、気楽なものだと開き直っている昨今だ。

